

先週の礼拝メッセージ(2021年12月12日) ベン牧師

「天には栄光、地には平和」 ルカによる福音書 2:13-14



今日は天使の賛美の言葉を取り上げました。イエス様が救い主として生まれることは、旧約の時からすでに神様のご計画として預言されていました。エフェソ 1:4 には、「天地創造の前」からのご計画であると記されています。

満を持してこの夜、そのご計画が成就したのです。ですから天使たちは、あえて羊飼いの目の前に現れて賛美し、それが聖書に記され、二千年後の私たちもその様子を知ることができるのです。

これは、天使の賛美と共に私たちも神様の壮大なご計画の現れを知り、神をほめたたえるためにほかなりません。

「いと高きところには栄光、神にあれ、/地には平和、御心に適う人にあれ。」(14節)

私はこの後半の言葉に心が止まりました。イエス様は全世界のすべての人々の救いのために来てくださったのですから、「地には平和が、すべての人々にあれ」と歌ってもいいのではないのでしょうか。それなのに、「御心に適う人にあれ」と天使は歌うのです。

天使が14節のように歌うことは、神のみこころであり、そこには意味があるのです。イエス様誕生当時のユダヤは、ローマの支配下にあり、人々はその圧政に苦しんでいました。さらに、その時の王ヘロデは、政治力は優れていましたが、人格的には常に自分の地位が奪われはしないかと疑心暗鬼で、人々はその疑いがいつ我が身に降りかかるか戦々恐々としていました。実際にイエス様の誕生を知ったヘロデは、ベツレヘムの2歳以下の子供を皆殺しにするという暴挙に出ました。明日どうなるかわからないという状況の中で、ユダヤの人々にとっては決して明るい世界ではなかったのです。平和という状況から程遠い生活の中に置かれていました。

神様はそのようなすべての事情をご存知で、天使に「地には平和が御心に適う人にあれ」と歌わせたのです。

神様はご自身がお立てになった救いのご計画に、たった一つだけ条件をおつけになりました。それは「信じる」ということです。

時々、「信じるだけで救われるのか」とか、反対に「なぜ信じなければ救われないのか」という質問を受けることがあります。神様は私たち人間を愛しておられるゆえに、ロボットのように造られませんでした。私たちに人格を与え、人間が自分の意志で人生を歩めるようにしてくださいました。だからこそ、私たちが自分の意志で信じることを願っておられるのです。もし条件が、難行苦行や聖書知識の豊富さや、富の多さであるなら、その条件に当てはまらない人々は救われないということになります。しかし、「信じる」ことは老若男女、健康状態、経済状態などすべてを超えて誰にでもできることです。同時に、信じようと思わないという決断も誰にでもできることです。

神様は「信じる」という誰にでもできるけれど、私が自分の意志で決断しなければいけないことを条件とされました。そして、イエス様を信じる者の罪を赦し、救いを与え、御国の約束を与えてくださったのです。信じるだけでこの恵みが誰にでも与えられるのです。

もちろん、礼拝も祈りも、みことばを学ぶことも、奉仕も献金も、信仰の成長のためにはとても大切なことです。しかしそれらは救いの条件ではありません。私たちが救われるためにしなければいけないことはたった一つ、「信じる」ことです。それ以外は何もいらないのです。私たちの人生は、神様の恵みの上に築かれています。

私たちはこの恵みの上に、御心に適っているかを考えるべきです。愛されているから他の人を愛し、赦されているから他の人を赦すのです。神の恵みに感謝が溢れて礼拝を捧げるのです。そういう人たちに平和がありますようにと天使は歌っているのです。イエス様を信じ続ける、これこそが御心に適うことなのです。

「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。」(ヘブライ 12:2)

イエス様から目を離さないで、神の平和を心にいただいて歩むものとなろうではありませんか。

